



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 細谷 俊夫 幹 事 伴 誠 会報・雑誌委員長 床井 光雄

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3083号 2025年3月11日(晴れ) 第33回例会 会員数100名

ハイブリッド例会

点 鐘 細谷会長
 司 会 副SAA 谷田部(勝) 会員
 ◇ロータリーソング「奉仕の理想」
 ◇本日のランチ ハヤシライス スープ サラダ

ビジター紹介 片嶋副会長
 ◇卓話講師 (株)苅込 取締役 苅込 陽加 様

会長挨拶 細谷俊夫会長

皆さん、こんにちは。今日は、14年前の2011年3月11日に発生した地震、東日本大震災の日です。震災では多くの尊い命が失われました。命の尊さを考え、震災で学んだことを風化させることなく、災害に備えることが大切です。ロータリーでは3月は、水と衛生月間です。水質の保全や、衛生環境の向上に関する活動に力を入れています。日本は海に囲まれており、雨量が多く水資源に恵まれています。宇都宮市では、水道水をペットボトルに詰めて販売しているほど、安全で良質な水を供給しています。世界では、水道水をそのまま飲める国は、日本も含めオーストラリア、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、カナダ、ニュージーランド等、わずか十数か所しかないとされています。現在の私たちは、水資源に恵まれていると思います。この大切な資源を守るために、普段は当たり前のように利用している水について、改めて考え、理解を深めましょう。

昨日は、陽北中に、伴幹事と田崎エレクトと田原青少年奉仕委員長と共に、善行生徒の表彰に行ってきました。元気な中学生に接して元気をもらってきました。

今日の卓話は、株式会社苅込の取締役の苅込陽加様です。「栃木から世界へ宇都宮市場に活気を呼び

戻したい」という事で卓話をさせていただきます。私事ですが宇都宮市場という、毎月第2土曜日に開催している一般開放日(朝市)を楽しみにしております。苅込様、後ほどの卓話をよろしくお願ひします。

幹事報告 伴幹事

◇本日18時30分~ ホテルニューイタヤにて 細谷年度第9回定例理事役員会開催。
 ◇大船渡市山林火災義援金のお願ひ募金箱を各テーブルに回します。
 ◇来週3月18日の例会 米山記念奨学生何 葵尼さんの卒業挨拶有り。ご家族も出席。

委員会報告 鈴木委員長

◇出席委員会 鈴木委員長
 <皆出席表彰・2月分>
 通算27年 細谷 俊夫 会員
 通算23年 若井 勲 会員
 通算19年 渡邊 有規 会員
 連続6年 野添 将嗣 会員
 通算5年 石田 裕之 会員
 連続3年 谷田部勝寛 会員

卓話
 「栃木から世界へ 宇都宮市場に活気を呼び戻したい！」



(株)苅込 取締役 苅込 陽加 様

皆様、こんにちは。私は、宇都宮中央卸売市場の仲卸等で水産業をしております。今日は、私の高校時代の留学についてと、水産業の仕事についてお話をさせていただきます。

－ パワーポイントにて説明 －

高校時代の留学の話

進学校に入学し、クラスメイトが必死に勉強している中、勉強する目的が見えず、日々、なんとなく過ごしていましたが、外の世界を見たいと思った時に、チャンスをくださったのがロータリーの青少年交換でした。台湾の高雄に1年間留学し、3～4か月の期間で3つのホストファミリーにホストしていただきました。台湾の家族の中で生活して、台湾語を覚えたり、文化に触れたり、学ぶことができました。ロータリーの活動にも沢山参加させていただきました。この留学から学んだこと等、大きく3つあります。1つ目は、ハングリー精神、2つ目は、世界中のファミリーと呼べる友人が出来たこと、3つ目は、はじめて日本人であることを自覚して、日本の素晴らしいことや世界に日本人として出ることの意味を理解しました。自分で考えて、自分の人生は自分で楽しくしなければ、というマインドセットが変わることが出来ました。日本に帰ってからは、大分県別府市にあるグローバルな大学を選択し進学しました。3年生の時にはブランディングを学ぶために、イタリアとフランスに留学しましたが、フランスにいる時にコロナが流行りました。

仕事の話

私の実家は宇都宮中央卸売市場の中で、水産業をやっていました。コロナの時には、取引先のホテルや飲食店は全て休業していましたので、お客さんがいないという状況で、水産業界や物流は保証もなく、先が見えないといった日々を過ごすことになりました。私の祖父は菊込水産の創業者なのですが、祖父は「内陸の人達に美味しいマグロを食べさせたい」という思いで、市場のオープンと同時に栃木県に移住し、マグロ屋を始めました。私は、このマグロ屋で小さい頃から手伝いをしていたので、将来は、会社のために貢献したい、という思いがどこかにありました。フランスにいる時に就職活動をして、仕事も決まっていたのですが、コロナというタイミングはいい機会と思い、栃木に戻る決意をしました。自分でやるか、実家とい

う市場がなくなるか、という選択の瀬戸際で、できるところまでやってみようという決断をしました。水産にとらわれずに新しいことにも挑戦していこうという思いから、菊込水産から(株)菊込という名前に変えました。

宇都宮市場の現状を見てみると、コロナ前でも、過去10年間で、市場に入ってくる魚が64%も減っていました。日本全国の統計でも、2000年をピークに一人当たりの魚介の消費量も減っていて、日本人が魚を食べなくなったという現状がありました。従来のやり方にとらわれない新しい水産業に、という思いで、まずはじめにしたことが、販売促進の支援でした。取引先のホテルや飲食店に魚を使ってもらい、利益を生むにはどうしたらよいかを考え、一緒にメニューを開発したり、チラシをつくったり、そういうことから始めました。それと同時に、仕入れ面の拡大ということで、全国の漁港に足を運んで、漁師さんに「よい魚があったら送ってくれませんか」と聞いて回り、その結果、今では、北海道から鹿児島まで仕入れ先を増やしています。

今後、私がやりたいことを2つ紹介させていただきます。1つ目は「宇都宮市場に活気を再び取り戻したい」ということです。現在、毎月第2土曜日を一般開放日として、皆様に市場で魚を買っていただける取組みをしています。また、来年の3月に新しい施設がオープンし、スーパーや食の専門店、カフェや飲食店など入る予定ですが、ここに、菊込のマグロ専門店をオープンさせたいと計画しています。2つ目は「栃木から世界へ」ということです。私たちが、日本の文化としてこれまで築いてきた、水産物の管理の仕方や技術についても、世界に売り出す大きなチャンスと考えています。世界の食品展に出展したり、世界の港に足を運んで繋がりを持つ、という活動をしています。また、4月から始まる万博に、6月27日から3日間ですが、出店も考えております。漬けマグロやヤシオマス等を販売し、栃木県の水産物の魅力を万博で伝えてくるつもりです。

今、振り返ると、ロータリーの青少年交換が、私の人生のターニングポイントだったと感じています。世界を見たいという思いを無視して、敷かれたレールの上で進学し就職していたら、今の自分はなかったと思います。人生を変えるチャンスを与えてくれたロータリーの方々には、大変感謝しております。

※魚食普及の冊子「マグロのぬりえ」配布